



## 大分県書道

令和7年3月号 No. 417

### 「真剣勝負の一時間」

令和七年一月十二日、県書連最大の行事「全国小中学生書道チャンピオン大会・決勝大会」がクラサス武道スポーツセンターにて開催されました。「大分県小中学生書道チャンピオン大会」として始まってから今回で二十九回目。いよいよ来年は三十年の佳節を迎える記念の大会となります。

第一回からお手伝いをさせていただき、改めて振り返ってみるとあつという間の三十年でした。この間、大会の意義に賛同する方が徐々に増え、年一回の恒例行事としてすっかり県内の子どもたちにも定着してきました。回を重ねることに普段からこの大会に向けておけいこに取り組

み、しっかりと力が備わって年々レベルアップしていることを強く実感しています。審査する先生方も作品に優劣をつけることが大変難しく頭を抱えるほどだと思います。

私がこの大会の素晴らしいと感じるところは、自分一人の力で課題と向き合い出品作品を一点自選しなければならぬこと。一時間という時間制限の中で時間経過を考えながら取り組むこと。そして同じ書道を学んでいる仲間たちと同じ空間、同じ時間を共有し切磋琢磨できることだと思います。

大人では経験できないことを多くの子どもたちが体感していることは本当にうらやましい限りです。ま

理事 薬師寺 文博  
(玄眞)

た、入賞することを目標にしつつも大会に参加できた喜びがその後の書道に向き合う姿勢や取り組みに大きく反映していることが、何よりの財産になっていると思います。

「県書道」の課題もチャンピオン大会と同じ「真剣勝負の一時間」の時間制限を設けて作品作りをするのも楽しい学習となるかもしれません。きつと今までは違う新たな発見があると信じています。

